

平成29年度 第1回東部地区幼稚園教員・保育教諭・保育士等の合同研修会

「子どもの家庭と文化を尊重する保育」

日時：平成29年5月25日(木) 場所：福祉人材研修センター

【研修講師】大阪総合保育大学児童保育学部 学部長 大方 美香 氏

【ねらい】 家庭とのよりよい連携を図るため、子どもと保護者を取り巻く環境への理解を深め、子ども自身とそれぞれの家庭の文化を尊重した保育や子育て支援の在り方について学ぶ。



【研修の様子】

1 子どもの家庭と文化を尊重するとは、生活文化的な差異に応答する保育をすることです。

○「みそしる」と聞いて、どんな味噌汁を思い浮かべますか。

合わせ味噌、具たくさん…器もいろいろ。思い浮かべる味噌汁は、人それぞれ違う。子どもたちにとっては、園の味噌汁と家庭の味噌汁は別の食べ物に映っているかもしれない。「この子は味噌汁を食べない」ではなく、今日までにどんな環境でどんな育ちをしてきたかを知ることで、食べない理由や必要な援助が見えてくる。生活文化の違いは、おままごとなどの遊びにもギャップとして表れる。保育者は子どもの通訳者として、生活や遊びのギャップをつなぐ役割が求められている。

まずは、子どもたちの多様な生活文化を理解する。そして、できていないことを指摘するのではなく、子どもの育ちを保護者に伝えたり、課題を共有したりするなど、一緒に解決策を探る姿勢が大切です。

○「はいはい」を通して、子どもたちにはどんな力が育つと思いますか。

「転んでも手をつかない」と聞くが、手をついた姿勢の経験がない子どもは手をつけない。保育者は、「はいはい」が必要な理由を保護者に伝えられているだろうか。子どもの育ちは、大人のかかわり方に大きく影響される。保育の長時間化が進む中で、どんなかかわりが必要か、園での生活を発達と学びの関係から見直すことが求められている。

就学前に、どのような生活や遊びが必要か、どのような関わりが発達を促すか、全体的な計画を作成する中で見直しましょう。

2 <演習> 大人社会の変化が、子どもの生活や遊びにどう影響しているか考えてみましょう。

SNSの普及で、子どもたちは人の声や大人の話聞く機会が減ってきたね。

長時間労働による夜型の生活の大人が増えたね。そういえば、朝の登園時刻が遅い子ども、増えた気がするなあ。



まずは、子どもをとりまく環境の変化、それに伴う発達の变化に気づくことが大切です。それに気がつくと、どんな遊びや経験が必要か考えるはず。すると、先生方の保育が変わってきます。子育て支援の基本は、「子ども理解」です。

使い捨ての物をよく使うかな。自動の水道やトイレなども増えたね。園と家で、道具の使い方などが違うんだね。



【参加者の感想】

- ◇ まずは、子どもたちの置かれている状況を知った上で、発達を促していく必要があることを学んだ。そして、日々、意図のある保育に努め、どのような意図で発達を促しているかを保護者にしっかり伝えていきたい。
- ◇ 大人の生活の変化によって、子どもの生活や発達も変化していることを園全体で共通理解し、家庭の様子等、一人一人の育ちの背景をふまえた保育をしていきたい。また、大人がしてほしい行動も子どもの成長の姿であるということを、保護者に伝えていくのが私たちの役割だと学んだ。
- ◇ 子どもたちの生活は、社会の変化から影響を受けている。生活の変化を受け止めた上で、どのように関わっていくのか、実践の一つ一つを掘り下げて見つめ直していくことが、今まで以上に必要な時代になっていると感じた。
- ◇ 問題点を課題として捉え解決方法を考えること、それを園全体で話し合うことが大切だと感じた。園内研修で、KJ法を使って話し合ってみたい。

子どもたちの笑顔が見られる保育をめざして・・・

